

わがまちまごめ

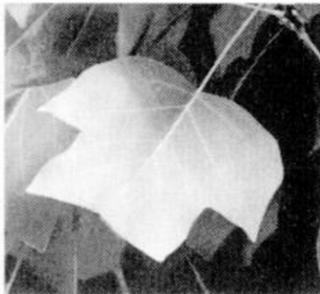
発行 わがまち大田馬込地区推進委員会
事務局 馬込特別出張所
〒143-0027 大田区中馬込3-25-5
☎(3774)3301代

武蔵野の面影 古木を尋ねる 馬込の散歩道 その二十

馬込の土地は、多摩の山裾から始まる武蔵野の東の端にあたります。その武蔵野に人が住み始めたころは、ケヤキ・クヌギ・ナラ・シイなどの生い茂る原野でした。今その面影は薄れましたが、わずかに残る「古木」を尋ねて、古木がもつ力強い生命力や大きな包容力に接しながら、時の移り変わりに想いをはせてみましょう。

◇新木紹介

国道一号線の馬込中学校前から北東へ400メートルの直線道路があります。両側の歩道に沿って、10メートルほどのすらりと伸びた街路樹が植えられています。ユリノキ(百合の木、モクレン科)です。明治になって北米から移入された種ですが、落葉高木で成長も速く、樹形も良いので、街路樹や公園樹としてよく見かけるようになりました。特徴の一つは花。英名でチユールリップツリーと呼ばれるように、五〜六月ごろチユールリップそっくりの花をつけますが、下から眺めても花見はできません。ホオノキ・トチノキ・タイサンボクなどモクレン科の花の付き方の特徴で、大きな葉の茂ったその上に見え隠れしていますので、少し離れて見た方が良いでしょう。もう一つの特徴は、葉。形がお祭りに着る袴(はかま)に似ているので「袴纏木」とも呼ばれています。この新木が古木となり、馬込の新たな象徴になるほどに育ってほしい。



◇斜面だから残った

ユリノキの道の突き当たり、善照寺と出世稲荷の境内に「鬱蒼」とした緑の塊があります。稲荷神社横のクロマツは、幹回り2メートル50、樹高15メートルあります。(木の大きさは、ふつう1メートル30の所の幹回りです)少し離れて善照寺境内のマツと重ねて見ると、「白砂青松」、どこか近くに砂浜があり、波の音も聞こえてくるような錯覚を覚えます。



もう一つの樹種はスダジイ(ブナ科シイ属)です。裂け目の入った樹肌、節くれだつた枝、風雪に耐えたたくましさを感じさせる樹です。昔この武蔵野の台地に人が住むようになったのは、このシイの実やクリ・カヤなどの食用堅果が豊富に採れたからです。ナラなどのドングリと違って、煎ると甘みがでておいしく食べられます。材はシイタケの椀木(菌を植える木)になります。幹周り3メートル

◇もう一つの樹林

お稲荷さんの前の坂下、樹林側に「旧蹟、鎌倉街道」の石碑があります。鎌倉街道はお稲荷さんの前の、この曲がりくねった坂道なのです。昔の道は素直に地形をなぞっているもので、まっすぐではありません。この古道を上へたどってみましょう。まっすぐな道は無視して、さらにその先へ行くと、馬込ならではの大きな樹林に行きあたります。それは郷土博物館の樹林です。

この樹林の主役はケヤキ(ニレ科ケヤキ属)。樹はそれぞれの種によって特異な形に育ちます。樹形といえます。ケヤキの樹形はよく「竹箒(たけぶし)を逆さに立てかけた形」といいます。空に向かって細かく枝分かれした小枝をのびのびと広げた様子は、見ても気持ちのいいものです。特に冬のシルエットはきれいです。

この樹林と上の南馬込五丁目公園にはケヤキとは兄弟の関係にあるエノキ(ニレ科エノキ属)が何本か見られます。似ているのですが樹の肌の違いで区別できます。エノキの赤い実は鳥、とくにムクドリの大好物です。その他コナラ・カシ・シイなど樹種も豊富です。下草には四季の野草もみられ、短いけれど九十九折りに整備された道にたたくと、どこか山地の一郭にでもいるような気分です。

まごめ 文芸



俳句

かの君に見せたき妙義冬の月
(ほたる)
年越のケーキを捧げ持ち来たる
(宵花)

日の光背に暖き針仕事
(高嶺)

霜柱あればかならず踏んでみる
(椋鳥)

昼飯はコンビニ弁当煤払い
(ひかり)

小春日や嫁と姑の笑い声
(小波)

短歌

馬込坂のぼる途中の鍛冶屋にて
息をととのう日課となれり
大橋 佑江

文士村と呼ばれるわが町文学の
歴史究むる人ら訪ひ来る
窪田あつみ

開業に後押しくれし人は逝き
弔問の列にコスモスが揺る
吉田 幸男

さり気なく手をそえくるる娘にゆ
だね箱根路をゆく気負いも失せて
山本千恵子

席題「冬」 川柳遊芳会
選者 近江あきら

初詣どの神様も稼ぎ時
左遷地で心も凍る冬の雨
温暖化あかぎれ知らぬ子供たち
ふれた手が恋の火種となる炬燵
一センチ積もり都会の足狂う

この「わがまちまごめ」は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。